

公益財団法人大阪陸上競技協会
２０２５年度事業報告
（２０２５年４月１日～２０２６年３月３１日）

（概括）

２０２５年度における競技会の企画、管理運営については、少子高齢化による登録者や登録公認審判員の減少等の環境変化を踏まえ、競技会の活性化を図るため参加競技者の拡大、観衆を増加させるため諸施策を講じた。競技会別にみると、木南記念陸上大会においては、大阪市の協力のもと市民無料観覧により約９百人強の新たな観客動員を図った。フィニッシュ付近の特別シート設置による臨場感あふれる観戦魅力の高い観覧席の設置などの集客対策を講じた。また、海外招待選手招聘は、当会理事が国際陸連の規定による３か国以上の競技者を確保するため特別且つ固有のノウハウを用い業務に当たった。場内イベントプレゼンテーションでは英語アナウンサーを起用しプロのグラウンドMCを起用するなど国際競技会に相応しい演出を行い運営水準の向上に努めた。広報委員会スタッフが中心となり広く一般に視聴いただけるようY o u T u b e 配信を専門事業者と連携し運営した。

大阪マラソンにおいては、記録が出やすいコースを活かし海外ランナーを含む３２，７４６人が出走したが高温のため完走者は出走者の９４％となった。レースはNHKで生中継放送し視聴率は最高水準となったほか、民放配信を含め大会の盛り上がりを通じて大阪の都市魅力の発信に貢献した。

ＯＳＡＫＡ夢プログラム事業は、４月から第三期事業を発足させ、東京世界選手権大会に６名の代表を送り出した。しかし準決勝進出１名のみとなった。着実に予選を通過していく実力の育成が課題となった。次回ロスアンゼルスオリンピック・パラリンピックに向けてこれら課題を乗り越え、育成を図る必要がある。

陸上教室(大阪アスレチックスアカデミア、アカデミア・クラブ)事業を推進し小学生、中学生、社会人を受講生として毎週木曜日の夜間に教室を運営した。アカデミア・クラブは週４階の練習会をヤンマーフィールド長居等において実施した。アカデミア・クラブ登録生はいくつかの中体連の競技会において上位入賞を果たした。

一般府民向けのランニング教室として第５回目となる長居スプリントチャレンジ、新たな社会貢献事業として駅伝フェスティバルを実施した。今後の参加者増加に向けた魅力引き上げが課題となった

協会運営に関しては、登録競技者の減少、主管料収入の低下、大阪マラソン法人化検討に向けた事務局体制の強化等に伴う費用増により資金流出し、収支が悪化した。このため、競技会収支の改善、費用の節減、協賛金の要請強化、助成金の活用等を図るため緊急収支改善計画を推進した。この中で独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成金対象団体となり大阪選手権大会を始めとする助成対象競技会の収支の均衡が図られるなど効果が生じている。公認審判員の委嘱に関しては、高齢化や応嘱希望者の減少による編成難に対応するため手当の引き上げなどの対策を講じた。

広報では、広報戦略部、映像配信部のスタッフによる競技会のY o u T u b e 配信の定例化、日本選手権大会等への記者派遣による短編動画の配信などタイムリーな競技会情報発信を進めた。

以下、２０２５年度における公益目的事業及び法人の管理運営について総括する。

1. 陸上競技に関する諸計画の実施及びその技術指導等に関する事業

当協会は、2025年度に実施する競技会に関して、オリンピック競技大会、日本選手権大会、国民スポーツ大会等の上位競技会の開催状況を踏まえつつ、当会主催競技会、協力団体競技会など府内の全ての競技会の年間計画(スケジュール)を関係団体、競技場施設と調整を図り策定した。最新の国際陸連、日本陸連の競技規則の周知に関しては、4月の記録会を利用して全審判員に対して「2025年度競技規則修改制」に係る講習会を実施した。

2025年度に大阪府内で行われた全ての主催・主管・共催・協力する競技会に審判員を派遣し技術指導を行った。その主なものは、次のとおり。

大阪マラソン2026、第45回大阪国際女子マラソン、エディオンディスタンスチャレンジ in 大阪2025、2026大阪ハーフマラソン、大阪・中之島2025競歩大会、第28回全国視覚障がい者駅伝大会。

2. 陸上競技会の主催、運営等に関する事業

(1) 国内競技会

①大阪陸上競技カーニバル

4月27日にヤンマーフィールド長居で実施した。昨年の大会から懸案であった男子5000mについて、今年度もエントリー1名で、当日DNFであった。要項の見直しが必要。

②第69回関西実業団陸上競技選手権大会

6月7日～6月8日にヤンマースタジアム長居及びヤンマーフィールド長居において実施した。中体連の大会と日程が重なるが、全日本実業団の資格記録突破を目指す関係上、日程重複の可能性は出てくる。

③第93回大阪陸上競技選手権大会

6月27日～29日にヤンマースタジアム長居及びヤンマーフィールド長居で実施した。金曜日の審判員確保が厳しい状況である。土・日の2日間開催での実施はできないかとの意見もある。

④2025年度大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会

9月28日にヤンマーフィールド長居で実施した。今年も審判の欠席が多く学生審判の協力で乗り切れた。

⑤第28回全国視覚障がい者駅伝大会

11月2日にヤンマースタジアム長居・周回コースで実施した。長居会場で開催するようになって13回目となるが、全国から多数の参加者があり成功裏に終了した。

⑥大阪・中之島2025競歩大会

1月17日に日本陸連公認中之島コースで実施した。今年はシニア男女20kmとU20男子10km、U20女子5kmの4種目を実施した。次年度は年齢区なしで実施を予定。

⑦エディオンディスタンスチャレンジ in 大阪2025

12月6日にヤンマースタジアム長居で実施した。昨年に続く開催であるが特段の問題もなく無事終了した。

⑧2026大阪ハーフマラソン

1月25日に大阪城公園スタート～ヤンマーフィールド長居フィニッシュの日本陸連公認、WA認証コースで実施した。本年も関西学生ハーフマラソン選手権大会を併催して実施した。ここ数年男女とも記録の向上が見られ、国内トップレースの1つに位置づけられている。

⑨その他記録会等

大阪陸上競技記録会は4月6日に第1回、4月12日・13日に第2回を実施した。

大阪陸上競技記録会中学の部は4月6日から6月15日まで計4回実施した。

長距離記録会は11月29日に1回実施した。

(2) 国際競技会

① 日本GP第12回木南道孝記念陸上競技大会

5月11日に日本グランプリシリーズ、WAコンチネンタルツアー・ブロンズとしてヤンマースタジアム長居で実施した。4種目で7個の大会新記録、2種目で3個の大会タイ記録が誕生した。

② 第45回大阪国際女子マラソン

1月25日にヤンマースタジアム長居発着の日本陸連公認、WA/AIMS認証コースにおいて、「愛知・名古屋2026アジア競技会」および「ロサンゼルス2028オリンピック競技会」の日本代表選手選考競技会を兼ねて実施した。初マラソン日本最高記録が達成され、MGCファイナルチャレンジ出場権獲得者が4名出た。

③ 大阪マラソン2026

2月22日に大阪府庁前スタート、大阪城公園内フィニッシュとする大阪マラソンコース(WA/AIMS認証コース)で開催した。レース前半は日本記録を大幅に上回る展開となった。最終的に20℃を超える気温となり、記録の達成はならなかったが、男女それぞれ2つずつの大会記録がでた。またMGCファイナルチャレンジ出場権獲得者は男子5名、女子1名であった。

(3) 府民・市民向け陸上イベント

① 長居スプリントチャレンジ2025

本格的な陸上競技場で走ったことがない一般市民の皆さんに気軽に走っていただくことを目的に始まった「長居スプリントチャレンジ」も今年で5回目を迎え、9月23日にヤンマースタジアム長居で実施した。小学生から大人まで日本陸連に登録していない多くの方の参加があり、準備運動・スタートブロックの装着指導・スタートテストなど、当協会の指導者が丁寧に指導、援助した。そして写真判定装置による公式計時、結果を表示した大型スクリーン前での写真撮影を実施し好評を得ている。

3. 陸上競技会に対する役員及び競技者の派遣に関する事業

国民スポーツ大会、全国都道府県対抗男子駅伝、同女子駅伝、その他2025年度各競技会について

(1) 主な競技会への監督・コーチ・選手派遣

① 第79回国民スポーツ大会(わたSHIGA輝く国民スポーツ大会2025)

島津監督・船津監督以下、コーチ10名・マネージャー2名・トレーナー3名、選手28名を派遣。

・男女総合(天皇杯)大阪府:4位 96.5点

(1位:兵庫県 122点 2位:京都府 110点 3位:福岡県 103点)

・女子総合(皇后杯)大阪府:4位 61点

(1位:兵庫県 68点 2位:長野県 64.3点 3位:神奈川県 63点)

② 皇后盃 第44回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

安田監督以下、コーチ5名・トレーナー1名、選手13名(うち補欠4名)を派遣。

・総合1位 2°18'19" (1位:大阪府 2位:兵庫県 2°18'28")

③ 天皇盃 第31回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会

鈴木監督以下、コーチ7名・選手12名(うち補欠5名)を派遣。

・総合11位 2°19'19" (優勝:宮城県 2°16'55"、2位 2°17'20")

(2) その他の競技会への監督・コーチ・選手派遣

① 第78回全国高等学校陸上競技対校選手権大会(7月25日~7月29日:広島県・広島

市広域公園陸上競技場)

船津総監督(高体連強化部長)、成瀬男子監督(東海大仰星高校)、井畑女子監督(関大北陽高校)、選手68名(男子42名・女子26名)を派遣。個人種目では男子走高跳(中村・関大北陽高校)と、女子800m(久保・東大阪大敬愛高校)、やり投(鈴木・大体大浪商高校)で優勝。

- ② 第52回全日本中学校陸上競技選手権大会(8月17日～20日:沖縄県・沖縄県総合運動公園陸上競技場)

田中監督(中体連強化部長)以下、強化部員、トレーナー、個人種目78名(男子31名・女子47名)、リレー男女各1チームを派遣。女子四種競技(矢野・旭東)が第2位、女子1000m(大喜多・豊中十一)が第3位、女子走幅跳(小柄・咲くやこの花)第3位入賞。

- ③ “日清食品カップ”第41回全国小学生陸上競技交流大会(11月2日:神奈川県・日産スタジアム)

寺田監督、指導者3名、選手14名(男子7名、女子7名)を派遣。

6年女子1000m(濱地・このはなジュニア)でA決勝進出(決勝腰痛のため棄権)

- ④ 第19回U18/第56回U16陸上競技大会(10月17日～19日:三重県・三重交通Gスポーツの杜 伊勢陸上競技場)

U18陸上競技大会で優勝はなく、女子1500m4位(増田・ヌベール学院高)、女子ハンマー投4位(門野・咲くやこの花高)以下、他4種目入賞。

U16陸上競技大会では、昨年に引き続き、男子円盤投(大谷・河南陸上クラブ)が優勝。女子三段跳(小柄・咲くやこの花中)が優勝。女子1000m(大喜多・豊中十一)2位、他3種目入賞。

4 陸上競技指導者等の表彰に関する事業

(1) 公認審判員、競技者、指導者等の表彰

① 公認審判員、指導者等の表彰

功労賞は、審判員等として献身的に大阪の陸上競技のために貢献してきた方に授与するものであり、2025年度は11名の方に授与した。

優秀指導者賞は、ジュニア競技者の育成に顕著な業績を上げた優秀な指導者に授与するものであり、本年度は小学生・中学生・高校生の指導者合計5名を表彰した。

② 競技者の表彰

勲功章は、全国大会等の優勝者、大阪新記録の樹立者に授与するもので、今年度は51名の競技者に授与した。

③ 激励金の交付

東京世界陸上の代表となった久保、矢田、秦、泉谷、福田、小池、吉津選手及びコーチ・監督、その他アジア陸上及び世界リレー代表に対して大会規定に基づき合計23名に対して激励金を贈呈した。

5. 陸上競技選手等の育成・指導に関する事業

(1) 強化事業(競技者の育成)

① 女子長距離夏季強化合宿

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会での優勝を目指し、その中心となる高校生候補選手7名を集め、御岳高原高地トレーニングエリアで11日間(7月8日～18日)の強化合宿を実施した。

② 男子長距離夏季強化合宿

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会での上位入賞を目指し、大阪中学校体育連盟陸上競技専門部と連携し、中学生男子65名が参加し国立乗鞍青少年交流の家周辺クロカンコース及びグラウンドで4日間（7月26日～29日）の強化合宿を実施した。

③ 小学生中学生合同練習会

大阪中学校体育連盟陸上競技専門部と大阪小学生陸上運動研究協議会と連携し、小中学生合同での第1回練習会を7月25日、服部緑地競技場で実施し、小学生19名、中学生180名が参加した。第2回練習会は、（1月11日、万博記念競技場で実施）小学生31名、中学生205名が参加した。

④ 国スポ強化合宿

国民スポーツ大会での男女総合優勝を目指し、その大阪代表選手を集め、水口スポーツの森 陸上競技場で3日間（8月26日～28日）の強化合宿を実施した。

⑤ 国スポ強化練習会

国民スポーツ大会での男女総合優勝を目指し、9月20日（土）にその大阪代表選手を集め、万博記念競技場で強化練習会を実施した。

⑥ 強化選手＜中学生・高校生＞練習会

2025年度全国大会で上位入賞を狙える強化選手Aランク53名（中学生22名・高校生31名）と下位入賞を狙える強化選手Bランク114名（中学生46名・高校生68名）を選考し、強化練習会を2回（12月6日、2月15日）万博記念競技場で実施した。

⑦ 高体連強化育成練習会

2025年度大阪高体連強化標準記録突破選手と高体連強化コーチ推薦選手、男女計291名が参加して、ヤンマースタジアム長居・ヤンマーフィールド長居等で3日間（12月25日～27日）の練習会を実施した。

⑧ 冬季大阪ジュニア陸上強化合宿

大阪中学校体育連盟陸上競技長距離強化選手10名・強化部推薦選手41名を集め、紀三井寺陸上競技場周辺および桃源郷運動公園で3日間（12月25日～27日）の強化合宿を実施した。

⑨ 男子駅伝チーム合同練習会

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で過去最高順位の更新を目指し、選手9名（中学生4名、高校生5名）で長居公園周回コースを使用して4回（12月25日・26日・27日・1月10日）の合同練習会を実施した。

⑩ 女子駅伝チーム年末合宿

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会での優勝を目指し、選手9名（中学生4名、高校生5名）を集め、駅伝コースおよびその周辺で2日間（12月28日～29日）の強化合宿を実施した。

⑪ 女子駅伝チーム試走合宿

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会での優勝を目指し、選手9名（中学生4名、高校生5名）を集め、実際の駅伝コース試走を中心に3日間（1月4日～6日）の調整合宿を実施した。

⑫ 男子駅伝チーム試走合宿

全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で過去最高順位の更新を目指し、選手8名（中学生4名、高校生4名）で実際の駅伝コース試走を中心に2日間（1月4日～5日）の調整合宿を実施した。

⑬ 冬季強化合宿

2026年度全国大会で上位入賞を狙える強化選手Aランクを中心に29名（男子16名・女子13名）を選考し、鹿児島県のジャパンアスリートトレーニングセンター大隅で4日間（1月4日～7日）の強化合宿を実施した。

⑭ 中体連強化選手練習会

大阪中学校体育連盟陸上競技強化選手62名・強化部推薦選手45名を集め、強化練習会を4回（1月24日、2月23日、2月28日、3月14日）万博記念競技場で実施した。

⑮ 春季大阪ジュニア陸上強化合宿

大阪中学校体育連盟陸上競技強化選手62名・強化部推薦選手等108名を集め、紀三井寺陸上競技場およびその周辺で3日間（3月27日～29日）の強化合宿を実施した。

（2）指導者の育成

有資格者（日本スポーツ協会および日本陸上競技連盟公認スポーツ指導者）の育成

① JAAF公認コーチ<JSPO公認陸上競技コーチ3>

日本スポーツ協会・日本陸上競技連盟主催の「JSPO公認陸上競技コーチ3養成講習会」に受講者を2名（村上祐一、富山）推薦した。

② JAAF公認ジュニアコーチ<JSPO公認陸上競技コーチ1>

2015年度から10回目（2020年度のみコロナ感染拡大による中止）の「JSPO公認陸上競技コーチ1養成講習会」大阪会場を開催し、24名が受講した。

③ JAAF公認スタートコーチ<JSPO公認陸上競技スタートコーチ>

2022年度から始まった「JAAF公認スタートコーチ養成講習会」も4年連続大阪会場（2月28日：万博記念競技場）を開催し、23名が受講した。

④ 日本陸上競技連盟委嘱 エducーター<コーチ育成者>

昨年から大阪にはエデュケーターが2名となったが、2026年度に向けて3人目の候補者を検討中。

⑤ 冬季大阪ジュニア陸上競技指導者研修合宿

大阪中学校体育連盟各地区陸上競技専門部委員会から推薦を受けた陸上競技指導者16名に3日間（12月27日～29日紀三井寺陸上競技場）参加してもらい、陸上競技を通した身体リテラシーの育成方法や、実践的指導理論に基づく中学生に最適なトレーニング方法（2025年度は短距離・ハードル・走幅跳・走高跳・砲丸投に分けて実施）を習得してもらった。

⑥ 近畿ブロック研修合宿への指導者派遣

中学生の陸上競技に携わる選手及び指導者が競技に対する知識と理解を深めながら種目に応じた技術指導の中、一層の競技力向上に寄与するとともに集団生活を通じて基本的な生活習慣の確立と選手相互の友情を培うことを目的として3日間（1月10日～12日）紀三井寺陸上競技場で研修合宿を実施した。

⑦ 有資格指導者への情報発信、資格更新研修会

資格有効期限間近の指導者に連絡、更新研修会を紹介するとともに、上記⑤を資格更新研修会として、有資格者に受講を勧めた。

⑧ 中学生・高校生の指導者対象の各種目別実技指導講習会

大阪中学校体育連盟陸上競技専門部、大阪高等学校体育連盟陸上競技部、また各市陸上競技協会等と連携し、年数回の種目別実技指導講習会を開催した。

（3）大阪アスレックスアカデミア事業

＜アカデミア陸上教室＞

小学生、中学生、社会人を対象にヤンマーフィールド長居を拠点として週 1 回講座を開催した。カリキュラムは、運動の苦手な子どもたちも参加できる内容とし、初心者の方には社会人向けには各々の運動能力に配慮したものとした。

とりわけ、小中学生の受講生の心身の健全な育成と成長を丹念に支援していくとの事業目標のもとに、子供たちが楽しく運動に触れあえるものとし、走、投、跳の基礎動作について用具を使って楽しく学習、体験できるものとした。小・中学生の育成指導に関して実績のある当会の理事、職員に加えオリンピック、国際陸連公認コーチ、日本スポーツ協会公認指導員、看護師をコーチ、支援員に配置した。保護者に対しても、運動の基礎理論や小学生期の発達段階における育成の方法、栄養取得などに関する講義を行い、身近な家庭からも成長を見守れるよう支援を行った。

また、大阪市の後援を受け、同市の広報の支援をいただくなど事業の幅広い広報活動を行った。

＜アカデミア・クラブ＞

本クラブアカデミアは、学校運動部活動の改革による地域の受け皿のモデルとなるよう開始したものである。当クラブは、中体連の競技会に正式に参加し、登録生、練習生(中学校の部活動に入部している生徒)のカテゴリーを設け、週 5 回(練習生は 2 回)の練習会を実施した。登録生、練習生の競技力の向上、心身の健全な育成を図るとともに競技会での上位入賞を獲得するなどの成果を上げた。当年度に 1 期生が卒団した。本クラブは、将来のトップアスリートを育成するインキュベーター機能を果たすためその基盤整備を図っていく。また、受講者の拡大や新規協賛金の獲得などにより事業収支の均衡を図られるよう運営スタッフ業改善等の検討を行った。

2025 年度受講生数(2026. 3 月末現在)

【アカデミア】

小学・低学年	24 人	1 年生(2 人)、2 年生(4 人)、3 年生(18 人)
小学・高学年	81 人	4 年生(24 人)、5 年生(30 人)、6 年生(27 人)
中学生	13 人	1 年生(5 人)、2 年生(4 人)、3 年生(4 人)
社会人	3 人	

【アカデミア・クラブ】

ジュニア(小学)	14 人	4 年生(4 人)、5 年生(4 人)、6 年生(6 人)
中学登録生	43 人	1 年生(11 人)、2 年生(12 人)、3 年生(20 人)
中学練習生	56 人	1 年生(18 人)、2 年生(19 人)、3 年生(19 人)
合計	220 人	

※クラブアカデミア ジュニア人数は、アカデミア陸上教室小学・高学年の内数

(4) 第Ⅲ期 O S A K A 夢プログラム事業

本事業は、地元大阪から 2020 東京オリンピック競技大会に代表選手を送り、陸上・スポーツを通じた地域の活性化につなげたいとの決意のもとに地元経済界の多大なるご支援のもと 2015 年 9 月からスタートした。2021 年 6 月にヤンマースタジアム長居で開催した『第 105 回日本陸上競技選手権大会(東京オリンピック代表最終選考会)』において、男子 100m において多田修平選手、同 200m において小池祐貴選手が優勝し、個人種目とリレーで念願のオリンピック出場が決定するなどの成果を上げてきた。ブダペスト 2023 世界選手権においては、当事業指定競技者から 10 名が代表選手として選出される快挙となった。泉谷選手が 110mH 競技で 5 位となるなどメダル獲得が期待される成果を上げる結果となった。パリオリンピック大会には 7 名、パリパラリンピック大会には 1 名を代表派遣し、坂井隆一郎選手は 400m リレーで 5 位に入賞、泉谷駿介選手は 110m ハードルで準決勝 3 位、田中佑美選手は 100m ハードル

準決勝7位となった。堀越信司選手はパラリンピック男子マラソン位となり支援の成果が着実に結実している。2025東京世界陸上における競技成績は下表右欄記載のとおりである。東京世界陸上では、予選通過者が少なくロスアンゼルスオリンピックに向けて課題を残した。今後は、海外指導者のコーチングや海外競技会への参戦により実戦経験を積んでいくことが重要である。これにより世界トップの技術・スピードを磨き競技力をさらに引きあげ、メダル獲得を目標に取り組んでいく。

<第Ⅲ期OSAKA夢プログラム 指定競技者一覧>

no	指名		所属	種目	ランク	2025 東京世界陸上成績
1	坂井 隆一郎	男	大阪ガス	1 0 0 m	A	
2	泉谷 駿介	男	住友電気工業	1 1 0 m H 走幅跳	A	予選 5 着、準決 D N F
3	福田 翔大	男	日本大学	ハンマー投	A	予選 26 位(全体)
4	丸山 優真	男	住友電気工業	十種競技	A	
5	久保 凜	女	積水化学	8 0 0 m	A	予選 7 着
6	田中 佑美	女	富士通	1 0 0 m H	A	予選 6 着
7	秦 澄美鈴	女	住友電気工業	走幅跳	A	予選 20 位(全体)
8	森本 麻里子	女	オリコ	三段跳	A	予選 35 位(同)
9	西岡 尚輝	男	筑波大学	1 0 0 m	B	
10	葛西 潤	男	旭化成	10000m	B	
11	濱西 諒	男	自衛隊体育学校	5000m競歩 10000m競歩	B	
12	堀越 信司	男	N T T 西日本	P A R Aマラソン	B	
13	渡辺 愛	女	ユニクロ	8 0 0 m	B	
14	前田 穂南	女	天満屋	マラソン	B	
15	松田 瑞生	女	ダイハツ	マラソン	B	
16	アブラハム光博ナチ	男	関西大学	100m	C	
17	林 申雅	男	筑波大学	400m	C	
18	渡邊 瑛斗	男	筑波大学	棒高跳	C	
19	北田 琉偉	男	日本体育大学	棒高跳	C	
20	アツホシ ジェイソン	男	福岡大学大学院	砲丸投	C	
21	アツホシ アントリュー	男	九州共立大学	ハンマー投	C	
22	塩見 綾乃	女	岩谷産業	8 0 0 m	C	
23	奥野 紗	女	関西大学	5000m 競歩 10000m 競歩	C	

(5)障がい者競技者指導、競技会への役員派遣

大阪市障害者福祉スポーツ協会の委託を受け、障がい者対象の陸上教室(ラン r u nラン)に指導者を派遣し、楽しく陸上競技、スポーツを楽しめるよう指導した。今年度は、大阪アスレチックスアカデミア事業とも連携して一緒に練習を行う取り組みも実施した。

大阪市障がい者スポーツ大会及び大阪府障がい者スポーツ大会の審判員を派遣し競技運営にあたるとともに、全国障がい者スポーツ大会の大阪府選手団の選考を行い、大会に役員を派遣した。また、大阪府選手団の練習会の指導を行った。さらに、ヤンマースタジアム長居において開催された全国視覚障がい者駅伝大会へ審判員を派遣した。

6.その他この法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 競技者・公認審判員登録管理等

登録競技者数

年度	登録競技者数	増減
2019	29,695	—
2020	27,199	△2,496
2021	25,682	△1,517
2022	25,045	△637
2023	22,765	△2,280
2024	22,727	△38
2025	22,559	△168

登録競技者数は、少子化等の影響を受け減少傾向にあり、新型コロナウイルス感染症蔓延時に急減した。登録競技者の減少は、競技会運営基盤の低下となるものであり、競技会魅力の向上が求められる。

公認審判員登録数(期末登録者数)

年度	大阪陸協公認審判員登録者数	増減
2019	1,510 人	—
2020	1,406 人	△104 人
2021	1,326 人	△80
2022	1,341 人	15 人
2023	1,285 人	△56
2024	1,212 人	△73
2025	1,197 人	△15

公認審判員登録者数は、高齢化の伸展等の影響を受け減少している。登録審判員の減少は、審判編成や審判技術の継承に課題となっている。当会主催競技会は、中体連、高体連の教員を中心に審判編成しており大規模大会で審判員確保が困難となっている。学生・高校生などの若年審判員の育成、活用が課題となっている。

(2) 広報活動(ホームページ、Y o u T u b e、S N S等の活用促進の推進)

Y o u T u b e 配信を活用した記録会等の生中継放送等に関しては、大阪陸協チャンネルから放送し様々な工夫を凝らしている。T w i t t e r や F a c e b o o k への投稿にも努めた。

情報発信の強化に関しては、競技会要綱、エントリーリスト、スタートリスト、リザルト速報、公式リザルトなど競技会情報をタイムリーに当会ホームページに掲載し、府・市民の皆様の誰もが閲覧できるようにした。

大阪マラソンにおいては、日本放送協会、毎日放送、読売テレビにおいて中継放送を実施した。市民ランナーを含む約3万3千人弱の参加により大いに盛り上がった。

O S A K A 夢プログラム事業は専用ホームページにおいて、活動の様様や結果を報告した。大阪アスレチックスアカデミア事業専用ホームページを設けた。

(3) 公認審判員の育成等

2025年度審判講習会、新規公認審判員認定講習を下表の日程で実施した。本講習会において、国際陸連・日本陸連競技規則の修正周知を図った。

回	期日	大会名	場所	参加者
第1回	2025/03/14、15	学連記録会	ヤンマースタジアム長居	—

第2回	2025/04/13	記録会	ヤンマーフィールド長居	528
第3回	2025/06/15	第4回記録会(中学生)	万博記念公園陸上競技場	233
第4回	2025/06/22	大阪実業団陸上	ヤンマーフィールド長居	389
第5回	2025/09/28	クラブ対抗	ヤンマーフィールド長居	45

(5) 各種会議の開催状況

評議員会など機関会議等の開催状況、重要な検討事項について、以下の通りである。

1) 評議員会

開催状況、審議内容は、次のとおりである。

○2025年度定時評議員会

令和7年6月18日(水) 18時00分から

場所 住友ビル(12階)特別室 大阪市中央区北浜4丁目5-33

決議事項

第1号議案 理事の選任について

第2号議案 令和6年度事業報告、決算報告、監査報告について

報告事項

令和7年度事業計画、予算について

2) 理事会

開催状況、審議内容は、次のとおりである。

○令和7年度 第1回理事会

令和7年5月27日(火) 18時30分から

場 所：ヤンマースタジアム長居

I 報告事項

1. 2025年度審判講習会について

第1回〔3月14・15日(学生/長居)※実施済〕

第2回〔4月13日(一般:新規・移籍・継続/長居)※実施済〕

第3回〔6月15日(一般:新規・移籍・継続/万博)〕

第4回〔6月22日(学生/長居)〕

2. 競技会報告

・第1回大阪陸上競技記録会<万博・長居>〔4月6日〕

・第2回大阪陸上競技記録会<長居>〔4月12日・13日〕

・第1回～第3回大阪陸上競技記録会(中学<万博・長居・金岡>)〔4月5日・28日・5月6日〕

・第1回小学生陸上競技記録会<枚方>〔4月20日〕

・大阪陸上競技カーニバル<長居>〔4月27日〕

・第22回大阪府障がい者スポーツ大会<万博>〔5月11日〕

・日本GP第12回木南道孝記念陸上競技大会(WA-C T)〔5月11日〕

II 連絡事項

1. 第69回関西実業団陸上競技選手権大会〔6月7、8日〕

2. 第93回大阪陸上競技選手権大会〔6月27日～29日〕

3. 大阪マラソン2026について〔2026年2月22日(日・祝)〕

4. 駅伝フェスティバル〔11月23日〕

5. 中之島競歩2025〔2026年1月17日〕

6. 2025年度大阪陸協機構および大規模大会分担修正案について

7. 定時評議員会〔6月18日〕について

Ⅲ 協議事項

1. 令和6年度事業報告及び決算報告の承認並びに監査報告について
2. 第93回大阪陸上競技選手権大会における競技会ボランティアの活用について
「ドリームブースター」募集計画ほか
3. 大阪マラソン開催組織の法人化にかかる人事等について
4. 育児休業・介護休業規程の改正について
5. 緊急収支改善計画の修正について
6. 功労賞、勲功賞、優秀指導者賞候補者について
7. 大阪スポーツ賞候補者推薦について
8. 2025年度顧問・参与について

Ⅳ その他

- ・事務局連絡、各委員会報告

○令和7年度 第2回理事会

令和7年8月22日（金）18時30分から

場 所：住友ビル12階 中会議室

Ⅰ 報告事項

1. 加入団体（クラブ）代表者会議〔7月8日〕について
2. JAAF公認ジュニアコーチ養成講習会について〔8月9日、8月14日～15日〕
3. 競技会
 - ・第93回大阪陸上競技選手権大会について〔6月27日～29日〕
 - ・第78回全国高校陸上競技対校選手権大会〔7月25日～29日〕
 - ・第52回全日本中学校陸上競技選手権大会〔8月17～20日〕

Ⅱ 連絡事項

1. 近畿陸上競技選手権大会〔8月30日、31日〕
2. NAGAI Sprint Challenge 2025〔9月23日〕
3. 大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会〔9月28日〕
4. 大阪マラソン2026について〔2026年2月22日（日）〕
5. 大阪マラソン開催組織の法人化について
6. 大阪陸協中期5か年計画の推進について

Ⅲ 協議事項

1. 会長等の互選選定に係る3月18日理事会可決議案の追認について
2. 生涯現役スポーツ賞〔陸上競技関係〕推薦候補者について
3. 第78回国民スポーツ大会・大阪代表選手選考について
4. 就業規則の改正（フレキシブルタイム制の導入）について

Ⅳ その他

- ・事務局連絡、各委員会報告

○令和7年度 第3回理事会

令和7年12月4日（木）18時30分から

場 所：ヤンマースタジアム長居

Ⅰ 報告事項

1. 近畿陸協役員総会について
2. OSAKA夢プログラム指定競技者2025東京世界陸上競技選手権報告

3. 第79回滋賀国民スポーツ大会報告

4. 競技会報告

- ・近畿陸上競技選手権大会〔8月30日、31日〕
- ・NAGAI Sprint Challenge 2025〔9月23日〕
- ・大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会〔9/28〕
- ・長居駅伝フェスティバル2025<加入クラブ対抗駅伝ほか>〔11月23日〕
- ・大阪陸協長距離記録会〔11月29日〕
- ・大阪ロードレース〔11月30日〕

II 連絡事項

1. エディオン ディスタンス チャレンジ in 大阪2025〔12月6日〕
2. 第3回中之島競歩大会〔2026年1月17日〕
3. 第45回大阪国際女子マラソン・2026ハーフマラソン〔2026年1月25日〕
4. 第17回おおさか子どもEKIDEN〔2026年1月31日〕
5. 大阪マラソン開催組織の法人化について
6. 中期5カ年計画の推進へ向けて

III 協議事項

1. OSAKA夢プログラム指定競技者の追加について
2. 中間決算について
3. 育児休業規程の改正について

IV その他

- ・事務局連絡、各委員会報告

○令和7年度 第4回理事会

令和8年3月24日（火）18時30分から

場 所：ヤンマースタジアム長居

I 報告事項)

1. 天皇盃第31回男子駅伝・皇后盃第44回全国都道府県対抗駅伝競走大会
2. 第3回中之島競歩大会〔1月17日〕
3. 第45回大阪国際女子マラソン・2026ハーフマラソン〔1月25日〕
4. 第17回おおさか子どもEKIDEN大会〔1月31日〕
5. 関西マスターズゲームズ市長杯第78回大阪市民駅伝競走大会〔2月11日〕
6. 大阪マラソン2026〔2月22日〕
7. 近畿陸協役員総会について〔3月3日〕

II 連絡事項

1. 日本GP木南道孝記念陸上競技大会WA-C T〔5月10日〕
2. 令和8年度競技会日程（案）について
3. 2026年度 大規模大会の分担について
4. 2026年度 競技会理事担当割り当てについて
5. 大阪マラソン開催組織の法人化について
6. 第111回日本陸上競技選手権大会の開催について
7. 令和8年度陸協組織・機構について

III 協議事項

第1号議案 令和8年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類、当該事業年度開始の日において行う公益目的事業の種類又は内容、収益事業の内容について

記載した書類(事業の概要)の承認について

第2号議案 緊急収支改善計画の延長について

第3号議案 公認審判員等手当規程の改正について

第4号議案 令和8年度定時評議員会の招集について

第5号議案 2026年度大阪陸上競技協会顧問・参与の依頼について

第6号議案 大阪マラソン運営法人設立時期の変更に伴う関係職員の雇用延長等について

第7号議案 資産取得資金の廃止、公益充実資産の積立について

第8号議案 (仮称)大阪マラソン財団基本財産への出捐について

IV その他

・事務局連絡、各委員会法報告

3)常務理事会

○令和7年度 第1回常務理事会

令和7年4月22日(火) 18時30から

場 所: ヤンマースタジアム長居

I 報告事項

1. 2025年度審判講習会について

第1回〔3月14日、15日(学生/長居)※実施済〕

第2回〔4月13日(一般:新規・移籍・継続/長居)※実施済〕

第3回〔6月15日(一般:新規・移籍・継続/万博)〕

第4回〔6月22日(学生/長居)〕

II 連絡事項

1. 大阪陸上競技カーニバルについて〔4月27日〕

2. WACT日本GP 第12回木南道孝記念陸上競技大会について〔5月11日〕

3. 第93回大阪陸上競技選手権大会〔6月27日～29日〕について

4. 駅伝フェスティバル〔11月23日〕について

5. 中之島競歩2025について

6. 大阪マラソン2026について〔2025年2月25日〕

7. 大阪陸協機構および大規模大会分担修正案について

II 協議事項

1. 第93回大阪陸上競技選手権大会における競技会ボランティアの活用について
「ドリームブースター」募集計画ほか

2. 大阪マラソン開催組織の法人化にかかる人事等について

3. 育児休業・介護休業規程の改正について

4. 緊急収支改善計画の修正について

III その他

・事務局連絡、各委員会報告

○令和7年度 第2回常務理事会

令和7年7月22日(火) 18時30～

場 所: ヤンマースタジアム長居

I 報告事項

1. 加入団体(クラブ)代表者会議〔7月8日〕について

2. 第93回大阪陸上競技選手権大会について〔6月27日～29日〕

II 連絡事項

1. 近畿陸上競技選手権大会〔8月30日、31日〕
2. NAGAI Sprint Challenge 2025〔9月23日〕
3. 大阪陸協加入クラブ対抗陸上競技大会〔9月28日〕
4. 大阪マラソン2026について〔2026年2月22日（日）〕
5. 大阪マラソン開催組織の法人化について
6. 大阪陸協中期5か年計画の推進について

Ⅲ 協議事項

1. 就業規則の改正（フレキシブルタイム制の導入）について

Ⅳ その他

- ・事務局連絡、各委員会報告

○令和7年度 第3回常務理事会

令和7年10月9日（木）18時30～

場 所：ヤンマースタジアム長居

Ⅰ 報告事項

1. 近畿陸協役員総会について〔8月31日〕
2. OSAKA夢プログラム指定競技者2025東京世界陸上競技選手権報告
3. 第79回滋賀国民スポーツ大会報告

Ⅱ 連絡事項

1. 長居駅伝フェスティバル2025 ＜加入クラブ対抗駅伝ほか＞〔11月23日〕
2. 第3回中之島競歩大会〔2026年1月17日〕について
3. 第45回大阪国際女子マラソン・2026ハーフマラソンについて〔2026年1月25日〕
4. 大阪マラソン開催組織の法人化について

Ⅲ 協議事項

1. OSAKA夢プログラム事業指定競技者の追加について

Ⅳ その他

- ・事務局連絡、各委員会報告

○令和7年度 第4回常務理事会

令和8年1月14日（水）18時30～

場 所：ヤンマースタジアム長居

Ⅰ 報告事項

1. 近畿陸協常務理事会〔12月25日〕について
2. 皇后盃第44回全国都道府県対抗女子駅伝競走大会

Ⅱ 連絡事項

1. 大阪・中之島2025競歩大会〔2026年1月17日〕について
2. 第45回大阪国際女子マラソン・2026ハーフマラソン〔1月25日〕
3. 第17回おおさか子どもEKIDEN大会〔1月31日〕
4. 大阪マラソン2026〔2月22日〕
5. 日本GP木南記念陸上〔5月11日〕
6. 大阪マラソン開催組織の法人化について
7. 令和8年度競技会日程（案）について
8. 令和8年度予算編成について

Ⅲ 協議事項

第1号議案 緊急収支改善計画の延長について

IV その他

- ・事務局連絡、各委員会報告

○令和7年度 第5回常務理事会

令和8年2月26日（木）18時30～

場 所：ヤンマースタジアム長居

I 報告事項

1. 天皇盃第31回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会
2. 第45回大阪国際女子マラソン・2026 ハーフマラソン [1/25]
3. 大阪マラソン2026 [2/22]
4. 日本陸上競技連盟 評議員・理事定数改訂の推移について

II 連絡事項

1. 日本GPM南道孝記念陸上競技大会WA-C T [5/10]
2. 2026年度 大規模大会の分担について
3. 2026年度 競技会理事担当割り当てについて
4. 大阪マラソン開催組織の法人化について
5. 第111回日本陸上競技選手権大会の開催について

III 協議事項

1. 2026年度 大阪陸上競技協会顧問・参与の依頼について
2. 理事会提出予定議案について
 - ・公認審判員等手当規程の改正について
 - ・定時評議員会の招集について
 - ・大阪マラソン運営法人設立時期の変更に伴う関係職員の雇用延長等について

IV その他

- ・事務局連絡、各委員会報告

4) 専門委員会

審議状況は以下のとおりである。

- ・総務企画委員会

当委員会は、メール交換等の方法で開催し、各種新規事業の計画を審議するとともに、評議員会、理事会、常務理事会の準備や法令の改正調査、規程改正案の審査等を行った。また、大阪選手権大会において表彰する功労賞等の選考に関する事務、評議員会、理事会、常務理事会の議事録作成事務等を行った。

- ・競技委員会

◇第1回競技委員会（部長会議）（於：2025年7月18日、大阪陸協横会議室）

- (1) 今年度前半競技会の総括
- (2) 後半の競技会について
- (3) 各部の本年度活動方針、活動計画について

◇第2回競技委員会（部長会議）（於：2026年1月29日、大阪陸協横会議室）

- (1) 今年度後半競技会（12月まで）の総括
- (2) 収益事業プロジェクト会議より
- (3) 次年度競技会日程について
- (4) 次年度大会要項について
- (5) 各部の活動状況の報告

◇第3回競技委員会（全体会）（於：2026年3月25日、ヤンマースタジアム長居大会運営）

(1) 2026年度競技会日程について

(2) 2026年度競技会について

(3) 全国競技運営責任者会議報告

(4) 各部からの報告

・強化委員会

第1回強化コーチ会議（7月17日） 国スポ選手選考、国スポ総合優勝に向けて

国スポ選手選考コーチ主任会議（8月20日） 国スポ大阪代表選手選考

国スポ申込書類作成会議（8月22日） 国スポ資格審査、申込書類作成

第2回強化コーチ会議（11月13日） 2026年度に向けた強化方針、強化策について

・広報委員会

競技会において競技を図りながら、Y o u T u b e 配信を定着させ解説も加えたコンテンツとして配信した。日本選手権や国民スポーツ大会を取材しO S A K A夢プログラムの指定競技者のインタビューを配信するなど、広報の幅を広げる取り組みを推進した。

・経営戦略会議

新5か年計画をとりまとめ8月の第2回理事会で承認を得て、12月第3回理事会において担当理事を定めた。今後、計画目標、マイルストーンを点検しながら計画を具体化していく。

・コンプライアンス委員会

種々の行事の輻輳により会議を招集することができなかった。

・財務委員会

WEB、メールを使用し、競技会の収支の改善、協賛金獲得等による財務基盤の安定化対策、更には予算編成、決算作成事務などを進めたほか、緊急収支改善計画を策定し、推進した。また、公益認定に伴う諸手続きに関して調整やその手続き事務を担った。

(6) 組織運営

当会は、中期5か年計画に定めた新規事業などによる事業拡大を続けており、事務局人員の不足があり体制の強化が求められている。他方、大阪マラソン運営組織の法人化に向けてその準備のために必要な人員を確保し行政が担えない部門の業務に関し当会が準備を進めることとなった。直接雇用3名、会長会社からの出向職員1名、業務委託1名の方法により雇用又は委託契約により人材を確保し、新法人設立準備化と新法人による業務運営に係る企画、運営に関する準備事務を担った。

また、収支均衡を図るため収益事業検討プロジェクトチームによる新規事業等の検討を行った。とりわけ、既存競技会の収支改善を図るため、競技会ごとの収支の課題を検討し新たに独立行政法人日本スポーツ振興センターの助成金を申請し交付決定を受け、事務局において助成金手続きを行った。

近年、強化事業、大阪マラソン、大阪国際女子マラソン大会、中之島競歩大会、長居スプリント等の新規事業、O S A K A夢プログラム事業、大阪アスレチックアカデミア事業、日本陸連・その他の団体の主管事業など各種事業に係る事務量の増加が顕著となっているところ、既存の人員体制で取り組んだ。各事業を円滑に推進し更なる活性化を図るためには、大阪マラソン運営新法人の設立後の人事異動を経て、事務局体制を強化していくことが求められる。

以上のとおりであるが、2025年度事業報告は本文にて事業等が詳細に説明され、したがって「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」は不要につき、附属明細書は作成しない。

2026(令和8)年5月28日

公益財団法人大阪陸上競技協会